

# 宮城県林業普及活動情報

2024. 10月号 No. 197

## もくじ

### 各地の林業普及活動情報

P 2～9

- 「野生きのこ等」への注意喚起(巡回指導) (大河原地方振興事務所)
- 「木育」×「食育」プログラム～手作り木製箸で給食を食べよう～ (大河原地方振興事務所)
- 林業研究グループへの支援～女川林業振興会の視察対応～ (北部地方振興事務所)
- ハタケシメジ生育状況確認 (北部地方振興事務所)
- 「苔テラリウム商品化講習会＋トークショー」の開催 (北部地方振興事務所栗原地域事務所)
- 「木の日」記念地域の小さな販売会in上品の郷の開催 (東部地方振興事務所)
- 竹の伐り方勉強会の開催 (東部地方振興事務所)
- 女川林業振興会視察研修の支援 (東部地方振興事務所)
- 森と海を結う・絆の森林づくりプロジェクト植樹祭・育樹祭開催支援 (東部地方振興事務所)
- 「登米市産業フェスティバル」の林業ブース支援(東部地方振興事務所登米地域事務所)
- 「畑わさび」の栽培現地調査 (東部地方振興事務所登米地域事務所)
- 原木しいたけの栽培視察 (東部地方振興事務所登米地域事務所)
- 気仙沼市産業まつりに林業PRブース出展 (気仙沼地方振興事務所)
- 令和6年度伐木等の業務労働安全衛生特別教育(第1日目/3日)を実施 (林業技術総合センター)

## 「野生きのこ等」への注意喚起(巡回指導)

大河原地方振興事務所

【2日(水)】

秋のきのこシーズンに伴い、管内の特産林産物を取り扱う直売所を対象に、放射性物質による食の安全・安心を確保するため巡回指導を実施しました。

今回は、これまでの情報収集等により野生きのこの取り扱いが想定される管内の直売所を主な対象に、放射性物質濃度の基準値を超えた商品を流通させないように、また、毒キノコ等の取り扱いに注意するよう巡回指導を実施し注意喚起を行い、販売者には、改めて、食の安全・安心を確保するため、検査の必要性を再認識していただきました。

引き続き、適宜、巡回指導を行いながら、関係機関と連携のもと、安全安心な食品の流通について、注意喚起を行っていききたいと思います。



【巡回の様子】

## 「木育」×「食育」プログラム ～手作り木製箸で給食を食べよう～

大河原地方振興事務所

【9日(水), 10日(木)】

当所地方振興部主催の「キャリア教育プログラム」において、林業振興部で「木育」×「食育」プログラムとして、児童を対象とした「箸づくり」を実施しました。

当日は、講師の先生と連携して、児童全員が安全に作製できるようアドバイスや作業のお手伝いをしたほか、講師と連携し、森林環境パネルを掲示し、森林の働きなどを説明し、また、令和7年度に宮城県で開催される、全国育樹祭のPRを行いました。

児童たちは、かんな掛けに苦戦しつつも全員が安全に箸づくりを終えることができ、「楽しかった」「削った木から良い匂いがする」といった感想を聞くことができました。

今後も、こうした木と触れ合う機会をすることで、子供たちにとって森林や木が身近な存在になるよう、普及啓発を行っていききたいと思います。



【製作の様子】

## 林業研究グループへの支援 ～女川林業振興会の視察対応～ 北部地方振興事務所

【15日(火)】

東部地方振興事務所管内で活動している女川林業研究会が毎年行っている視察研修について、その一部を加美町森林整備対策室と協力して対応しました。

加美町からは、女川林業研究会から要望のあった「広葉樹利活用の取組」のほか、「薪の販売」、「木質バイオマス推進補助金」の説明が行われ、課題等について意見交換が行われました。

事務所からは森林経営管理制度（森林環境譲与税）の円滑な推進のため、令和4年度から取組んでいる伴走型支援について説明し、経緯や状況等について理解していただきました。

なお、会場の加美町中新田公民館には、広葉樹利活用の一つとして製作したテーブルセットが設置されており、形となった物を見ていただくことができました。

今後も、管内市町と協力して林業関係の様々な要望に応じてまいります。



【説明の様子】



【広葉樹材テーブルセットの見学】

## ハタケシメジ生育状況確認

北部地方振興事務所

【17日(木)】

先月（10月19日及び20日）伏せ込みを行った「ハタケシメジ菌床」について、生産者宅を訪問し、4週間後の生育状況を確認しました。

その結果、生育は良好であり、同じ菌株であっても傘の色づき等に違いが見られ、菌床設置の方法（プランター、板柵囲い）、日照時間が影響しているものと推測されました。

各生産者においては、伏せ込みからこれまで散水や温度管理が適切に行われており、今



【生育状況（プランター使用）】

後も生育環境を維持し、発生状況に応じた相談等に対応できるよう、指導・助言を行ってまいります。



【生育状況（板柵囲い）】

## 「苔テラリウム商品化講習会＋トークショー」の開催

北部地方振興事務所栗原地域事務所

【27日（日）】

苔の聖地化を目指している「くりはらの苔」によるグレードの高いテラリウムの商品化を図るため、「苔テラリウム商品化講習会＋トークショー」を開催しました。

第一部では、ユーチューブ「道草ちゃんねる」でテラリウム作製動画を多数配信されている石河氏、神奈川県鎌倉市に苔専門店・教室を構え多くの生徒に苔の育成、テラリウムの作製指導を行われている園田氏を講師に迎え、グレードの高い苔テラリウム作製を実演いただきました。

第二部では、石河氏、園田氏に加え、杜のコケリウムコンテストを主催する鎌田氏をファシリテーターとして迎え、「栗原の苔の聖地化を目指して」と題したトークショーを開催しました。

第一部の苔テラリウム作製実演では、「苔むす階段」、「苔壁」と題とした苔テラリウムを、宮城県産の稲井石、雄勝石、登米スレートを使い作製いただきました。

いずれも、使用する苔の種類、特性等を丁寧に説明いただき、手元をスクリーンに映しながら、配置バランス等のコツを惜しみなく披露いただき、クオリティの高い作品が完成しました。

第二部のトークショー「苔の聖地化を目指して」では、「多くの種類の苔が当たり前のように生育しているだけでは苔の聖地化は難しい。貴重な苔を観察できる散策路の整備や、苔に特化したインパクトのある何かが必要である。」とのご意見をいただきました。



【手元をスクリーンに映しての商品化講習会】



【鎌田氏（写真左）、石河氏（写真中央）、園田氏（写真右）によるトークショー】

## 「木の日」記念地域の小さな販売会 in 上品の郷の開催

東部地方振興事務所

【5日(土)】

石巻地域の農林水産物を広く県内の消費者にPRすること及び消費拡大を図ることを目的とし、宮城県産きのこ、木工品、ジビエ加工品などを集めた販売会を道の駅で実施しました。

木工業者3者ほか、ジビエやシイタケ生産者などが出店し、道の駅に来ていた多くの人に地域の農林水産物をPR及び販売することができました。また、木製ガチャガチャを活用し、全国育樹祭ノベルティがもらえるキャンペーンを併せて開催し、来年度の本県での開催を広く周知しました。

更に、出店者へ販売会に対する満足度等のアンケートを実施したところ、おおむね満足との回答であったことから、引き続き販売会を開催することとして、検討を重ねていきます。



【道の駅での販売会の様子】

## 竹の伐り方勉強会の開催

東部地方振興事務所

【11日(金)】

放置竹林対策及び、竹を切り出す職人である「伐り子」の確保・育成に向けて、当所林業振興部主催で「竹の伐り方勉強会」を開催しました。

竹材の現状や課題について説明した後、竹材店による伐採から枝落とし、搬出、選別までの見学、参加者による枝落としの作業体験も実施しました。参加者からは「参考になる事項が多々あり勉強になった」「使用する道具が参考になった」などの感想がありました。

なお、後日、竹林整備に取り組む方と、竹材の安定供給を目指す竹材店のマッチングを図ることができました。



【現地での勉強会の様子】

## 女川林業振興会視察研修の支援

東部地方振興事務所

【15日(火)】

林業技術の向上に資するため、当振興会で毎年開催している視察研修について、視察内容の企画及び当日の現地研修での案内を行いました。

当日は、加美町内で行われている畑わさび現地圃場の見学や加美町森林整備対策室から広葉樹利活用の取組及び県北部地方振興事務所から森林経営管理制度における伴走型支援などの説明を受け、研修を行いました。

会員の方から積極的な質問もあり、研修の内容は、今後の活動の参考になったと思われます。引き続き、当振興会の活動を支援していきます。



【畑わさび圃場の見学】

## 森と海を結う・絆の森林づくりプロジェクト植樹祭・育樹祭開催支援

東部地方振興事務所

【30日(水)】

令和3年に開催した「全国豊かな海づくり大会」を契機としてスタートした、林業関係者と漁業関係者との協働などにより、森と海が一体となって環境整備を進めることを目的として(公社)宮城県緑化推進委員会が主催する植樹・育樹イベントの開催支援を行いました。

会場は東日本大震災の津波により被災した海岸防災林で、防災林の再生による環境改善を図るため、地元小学校みどりの少年団を含む参加者がクロマツの植樹を行いました。また、R7年度秋に本県で開催される「第48回全国育樹祭」のPRも兼ね、隣接箇所ではアカマツ幼齢林の枝落とし体験も実施しました。参加した児童たちは、熱心に植樹・育樹活動をしていました。

当事務所では、事前打合せや現地調整、植樹・育樹作業の説明などを担ったもので、今後とも、地域の多様な主体との連携による森林整備を積極的に推進していきます。



【熱心に植樹活動をする児童たち】

## 「登米市産業フェスティバル」の林業ブース支援

東部地方振興事務所登米地域事務所

【6日(日)】

登米市産業フェスティバル林業部会の出展において、特用林産物の販売促進として原木しいたけの試食と販売を支援しました。また、登米市地域おこし協力隊と協力して木工工作コーナーを設置しました。新型コロナウイルス感染症対策で使用した飛沫防止パネルを加工し、木材のアップサイクルをPRしました。家族連れを中心に、多くの参加者が訪れ、木工工作体験を支援することができました。今後も継続してイベントの機会を活用し、原木しいたけ生産者を支援し、市民への木材利用推進をPRしたいと思います。



【原木しいたけ販売状況】



【賑わう木工工作ブースの様子】

## 「畑わさび」の栽培現地調査

東部地方振興事務所登米地域事務所

【16日(水)】

畑わさびの生産に取り組んでいる加美町の事業者の栽培現場を登米市と合同で現地調査しました。温暖化やニホンジカの食害により栽培適地が北上しており、新たな設備投資や出荷のための選別、梱包が必要ないことから、優位性が高い作物であることや栽培における留意点等の理解を深められました。適地を含めて栽培の可能性について登米市と検討していきたいと思えます。



【畑わさびの栽培状況】

## 原木しいたけの栽培視察

東部地方振興事務所登米地域事務所

【24日(木)】

東部地方振興事務所管内の原木しいたけ生産者が出荷制限解除に向けて東和町の生産者の栽培現場を視察しました。出荷制限解除のため、水田を人工ほだ場にしたことや林内のほだ場に砂利を敷き放射性物質対策を実施したことなどに加えて東京電力との損害賠償請求の手続き等について、親身になってアドバイスしていたのが印象的でした。生産者が一人でも多く出荷でき、安全・安心な原木しいたけを消費者の皆様提供できるよう期待します。



【林内ほだ場】

## 気仙沼市産業まつりに林業PRブース 出展

気仙沼地方振興事務所

【27日(日)】

気仙沼市産業まつりが開催され、当所では「特用林産物の試食(気仙沼市産メンマ)」・「なりきり林業キッズ体験」・「モルック体験」等、多岐にわたったPRブースを設けました。

当日は、気仙沼市産メンマ「特選上つつじメンマ」の試食を行い、「ここでは買えないのか?」といった問い合わせが多数寄せられるなど非常に好評でした。

また、木育コーナーでは、昨年度も子供達に大人気だったトイチェーンソーや高性能林業機械ミニカーのほかに、今年度は「モルック体験」を試験的に実施したところ、ルールはシンプルながら奥深いゲーム性に、参加者は夢中になって楽しんでいました。

これからも、様々なイベントに参加して、林業のPRや試食品の提供をしていきますので見かけましたら、是非、お立ち寄りください。



【モルック体験状況】



【なりきり林業キッズ体験状況】

## 令和6年度伐木等の業務労働安全衛生 特別教育(第1日目/3日)を実施

林業技術総合センター

【29日(火)】

県林務職員が、現場においてチェーンソー作業を実施する際に、労働基準法で事業者に求められる義務と同等の責務を確保するため、5名の受講者を得て、労働基準法に規定する標記特別教育の6時間分を実施しました。

カリキュラムは必要教程のうち、「関係法令」(1時間)、「振動障害及びその予防に関する知識」(2時間)、「チェーンソーに関す



【分解組み立ての様子】



る知識」(2時間)「伐木作業に関する知識」(1時間)を実施しました。講義内容は、テキスト「チェーンソー作業の安全ナビ」のカリキュラムに対応した章に沿って説明しました。また、「チェーンソーに関する知識」の学習効果を高めるために実機の分解組み立てを実施いただくとともに、チェーンソー取扱説明書について補完しました。「関係法令」では地方公務員災害補償法・ISO 5349-1を追加し、「伐木作業に関する知識」では、受口の切込深さ(3/1・4/1)の目視技能の確認、チェンブレイキの掛け外し、伐木の際の基本動作と退避時間について併せ確認いただきました。

これからも、各種普及指導等に向けた県職員の林業技能向上に努めます。